

2017

シラバス

時間割

看護学科

足利短期大学

平成29年度 足利短期大学看護学科 授業時間割表

登録コード	科目名	学年	担当教員	日程(期間)
	《各論実習》			
301	成人看護学実習	3	青山・佐藤(栄)・中村・川久保	 5/8～8/4・10/10～11/17
302	老年看護学実習	3	清水・櫻井・鈴木(早)	
303	小児看護学実習	3	細谷・栗田	
304	母性看護学実習	3	杉原・島田	
305	精神看護学実習	3	山下・宮武	
306	在宅看護学実習	3	佐藤(正)・鈴木(育)	
307	看護の統合と実践実習	3	中村 他看護系教員	

登録コード	科目名	学年	担当教員	日程(期間)
308	保健統計	3	山門	夏期集中(日程は後日決定)
309	統合看護援助論	3	中村 他看護系教員	後期集中(日程は後日決定)

授業科目	授業形態	単位数	卒業要件 必選	開講時期		担当者	備考
				3年前期	3年後期		
成人看護学実習	実習	6	必修	○		青山みどり・佐藤栄子 中村史江・川久保和子	270 時間

<目的>

成人各期の健康のあらゆる段階にある対象の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。

<目標>

1. 成人各期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。
2. 対象の健康障害の状態を理解する。
3. 健康問題を抱える対象に対して看護過程を用いた看護を実施する。
4. 身体機能に障害をもちながら生活する人への理解を深め、その人なりの QOL を追及し、個別性のある援助を実施する。
5. 対象を支える家族の役割を理解し、家族に対する援助の必要性を理解する。
6. 健康の維持・増進のための社会制度・資源の活用と援助について理解する。
7. 成人各期の対象を取り巻く家族・地域・職場などの環境を理解し、その対象に必要な援助のための保健医療福祉チームによるアプローチの必要性を理解する。
8. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。
9. 実習を通して、自己の看護観を養う。

<評価>

評価表を用い、実習内容、出席日数、実習態度、提出物の状況により総合的に行う。

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	卒 業 要 件 必 選	開 講 時 期		担 当 者	備 考
				3年 前 期	3年 後 期		
老 年 看 護 学 実 習	実 習	4	必 修	○		櫻 井 清 美 清 水 千 代 子 鈴 早 智 子	180時間

〈実習内容〉

〈授業の概要・方法〉

1. 目的

老年期にある対象を総合的に理解し、老年看護の実践能力を養う。

2. 目標

- 1) 加齢による高齢者の身体的・精神的・社会的変化を理解する。
- 2) 高齢者の健康維持・回復および障害に対する看護を理解し実践できる。
- 3) 高齢者に必要な日常生活の援助を理解し実践できる。
- 4) 高齢者への看護実践を通して保健・医療・福祉サービスの実際と連携の在り方を理解する。
- 5) 老年看護観を養う。

【老年看護学実習Ⅰ】

実習目的

老年期にある対象がよりよい生活を送るための援助を看護の立場で理解し実践できる。

実習目標

- ① 施設の概要を把握し、高齢者への保健・医療・福祉サービスの実際を理解する。
- ② 高齢者の生活の場から施設における高齢者の日常生活を理解する。
- ③ 日常生活の援助を通して高齢者の特性を理解し必要な看護・介護の実際について学ぶ。
- ④ ①～③を通して、老年観を考察する。

【老年看護学実習Ⅱ】

実習目的

老年期にある対象の健康上の問題および家族の役割を総合的に理解し、対象に応じた看護の実際について学ぶ。

実習目標

- ① 1 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。
- ② 老年期にある対象の健康上の問題及び家族の役割を総合的にアセスメントすることができる。
- ③ 老年期にある対象の健康上の問題及び家族に対する看護を計画・実施・評価・修正することができる。
- ④ 老年期にある対象及び家族へのサポートシステムを通して看護の継続性を考察できる。
- ⑤ ①～④を通して、老年看護観を考察できる。

3. 方法

1) 実習施設

医療施設、特別養護老人施設及びグループホーム他

2) 実習記録

詳細は老年看護学実習要項を参照のこと

4. 評価

レポート（課題学習、実習記録、老年看護観等）、実習態度、出欠席状況によって総合的に評価する。

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	卒 業 要 件 必 選	開 講 時 期		担 当 者	備 考
				3 年 前 期	3 年 後 期		
小 児 看 護 学 実 習	実 習	2	必 修	○		細 谷 京 子 栗 田 佳 江	90時間

<授業の概要・方法>

小児期における対象者とその家族を理解し、成長発達・健康段階や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
幼稚園実習と病棟での臨地実習と学内での実習を実施する。

<評価内容・方法>

- ・出席状況、学習状況、態度や提出物などを実習評価表を用いて総合的に評価する。
- ・事前課題を期日までに仕上げ提出しなかった場合には、臨地実習を履修することができない。

<小児看護学実習目標>

- 1) 小児期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。
- 2) 小児の人権や個の尊重、成長発達段階、健康レベルに配慮したコミュニケーションを図る。
- 3) 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解する。
- 4) 受持ち患児と家族の看護問題を明らかにし、看護を展開する。
- 5) 小児の安全管理に関する看護者の責任を自覚し、感染及び事故防止に努める。
- 6) 実習を通して小児看護について学びを深め、自己の子ども観や看護観を育むことができる。

<幼稚園・保育園実習概要>

- 1) 目的
健康な乳幼児の集団生活を体験し、子ども達と触れ合いながら、子どもの心情・成長発達・日常生活習慣への援助・安全事故防止・健康管理・かかわり方について学習する。
- 2) 目標
①健康な乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達を理解する。
②乳幼児に対するコミュニケーションの実際を学ぶ。
③子どもの日常生活習慣（食事・排泄・清潔・衣服・睡眠）への援助の場を観察し、指導を受けながら関わる。
④集団生活をおくる乳幼児への安全事故防止・健康管理に必要な援助の実際を学ぶ。
- 3) 実習概要
①幼稚園・保育園において見学およびコミュニケーション実習を行う。

<小児病棟実習概要>

- 1) 目的
健康障害をもつ小児期における対象者とその家族を理解し、成長発達・健康段階や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 2) 目標
①健康問題を持つ小児を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。
②小児の人権や個の尊重、成長発達段階、健康レベルに配慮したコミュニケーションを図る。
③健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解する。
④受持ち患児と家族の看護問題を明らかにし、看護を展開する。
⑤小児の安全管理に関する看護者の責任を自覚し、感染及び事故防止に努める。
⑥実習を通して小児看護について学びを深め、自己の子ども観や看護観を育む。
- 3) 概要
小児病棟において健康問題を持つ患児を受持ち、看護過程を展開する。

<履修条件>

- ・2年次生までの必修科目を全て単位修得していること。

<使用教科書>

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]「小児臨床看護各論」医学書院
- ・「写真でわかる小児看護技術」インターメディアカ

<参考図書>

- ・必要に応じて適宜指示する。

授業科目	授業形態	単位数	卒業要件 必選	開講時期		担当者	備考
				3年前期	3年後期		
母性看護学実習	実習	2	必修	○		杉原喜代美・島田葉子	90時間

<授業の概要・方法>

妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に適した看護を実践できる基礎的能力を養う。

1. 妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的経過・母子関係の形成過程について理解できる。
2. 受け持ちケースの看護過程を展開することができる。
3. 母性を取り巻く地域の医療・保健・福祉諸機関との関連について理解できる。
4. 母性看護を通して自己の母性・父性意識を発展させることができる。

<方法>

1. 正常に経過すると思われる母子を担当し、出産から退院までの看護を学習する。
2. 産婦人科外来では妊娠初期・中期・末期にある人の健康診査と保健指導を見学実習し、アセスメントする。
3. 母性看護に必要な看護技術を学習するために機能別に実習場所をローテーションする。

<評価>

評価表を用い、実習内容、出席日数、実習態度、提出物の状況により総合的に行う。

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	卒 業 要 件 必 選	開 講 時 期		担 当 者	備 考
				3年 前 期	3年 後 期		
精 神 看 護 学 実 習	実 習	2	必 修	○		蕨 原 孝 枝	90時 間

<授業の概要・方法>

- 1) 精神障害をもつ対象の精神的・身体的・社会的諸問題を総合的に理解し、看護の役割と方法を習得する。
- 2) 精神看護における基礎的な知識・技術・態度を学び、適切な看護を実践できる知識と技術を習得する。

<評価方法>

評価は実習内容、態度、記録等を総合的に評価する。

<到達目標>

- 1) 精神障害をもつ対象を精神的・身体的・社会的側面から理解し、精神症状と身体に関連性が理解できる。
- 2) 精神障害をもつ対象を精神的・身体的・社会的側面から理解し、精神疾患と精神症状による日常生活への影響が理解できる。
- 3) 看護理論を基に看護過程を展開し看護実践が行える。
 - (1) 精神看護に必要な理論を用いて対象を理解できる。
 - (2) 精神看護の技術を理解できる。
 - (3) 自己の振り返りが行える。
- 4) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割や連携について理解できる。

<履修必須条件>

1年次、2年次に修得すべき、すべての必修科目の単位を修得していること。

<使用教科書>

精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーヴェルヒロカワ
 精神看護学Ⅰ 精神保健学 ヌーヴェルヒロカワ
 精神看護学 ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂

<参考図書>

精神看護実習ガイド 照林社

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	卒 業 要 件 必 選	開 講 時 期		担 当 者	備 考
				3年 前 期	3年 後 期		
在 宅 看 護 学 実 習	実 習	2	必 修	○		佐 藤 正 子 鈴 木 育 子	90時間

〈授業の概要・方法〉

訪問看護活動および社会復帰施設での活動を通して、居宅等の生活の場で療養する人とその家族への看護の実際と地域において療養生活を支援する多職種の連携について学ぶ。

〈評価〉

出席状況、実習目標の到達度、実習態度、実習記録・レポート、カンファレンスへの参加状態、実習担当者の意見により総合的に評価。

〈訪問看護実習〉

目標1. 訪問看護利用者とその家族について多面的に理解する。

- 1) 療養者の健康障害および障害に伴う生活への影響を説明できる。
- 2) 家族介護者の健康状態および介護による生活への影響を説明できる。
- 3) 療養者・家族介護者が必要としている支援について説明できる。

2. 在宅療養者と家族の生活の場で展開される訪問看護活動の実際を学ぶ。

- 1) 訪問看護サービス利用に至るまでのプロセスを説明できる。
- 2) 療養者・家族の多様な価値観を尊重した態度を、同行した訪問看護師をロールモデルにして学ぶことができる。
- 3) 療養者の疾病・障害の状態に応じた生活ケアと医療ケアの特徴を説明できる。
- 4) 学生の立場で可能な看護を実施し、評価することができる。

3. 在宅療養者・家族を支援する多職種連携とケアチームの必要性の特徴について理解する。

- 1) 在宅療養を継続していくために必要な支援体制を、訪問事例を通して説明できる。
- 2) 関連機関・関連職種との連携について、訪問看護師の日々の活動から説明できる。

〈精神科社会復帰施設〉

目標 地域で生活する精神障がい者とその家族への支援の実際を理解する。

- 1) デイケア利用者への生活支援プログラムの目的を理解できる。
- 2) 就労支援事業の支援内容と利用者個々の社会復帰について考えることができる。
- 3) 関係医療機関と社会復帰施設の看護職員等の連携が理解できる。
- 4) 精神障がい者の地域生活支援体制について理解できる。

授業科目	教員名	学年	単位	必・選	期
看護の統合と実践実習	中村史江 他看護系教員全員	※3	※2	※必修	※ 後期

<授業の概要・方法>

- ・看護管理の実際から組織の中での看護師の役割を学び、既習の知識・技術を統合した看護の実践力を養う。

<評価内容・方法>

- ・評価表に基づく 100%

<実習の到達目標>

1. 既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた看護の実践力を養う。
2. 複数の患者へのケアの実践と看護ケアのマネジメントの実際から、ケアの優先度の判断と医療安全や倫理に基づいた看護を学ぶ。
3. 看護部、看護師長、チームリーダーから看護サービスのマネジメントの実際を学ぶ。
4. 多職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を学ぶ。
5. これまでの学習を振り返り、看護師としての成長・発展のための課題を明確にできる。
6. 看護師としての自己の看護観を明らかにする。

<方法>

- ・学内において、事例に基づいた看護技術のチェックを受ける。
- ・実習施設（足利日赤）において病棟管理方法や、役割、チーム医療について学ぶ。
- ・病棟管理師長、チームリーダーに付き、業務内容を知る。
- ・病棟内でのケアの優先、継続、安全性についての実際を体験し、看護師の役割について考察する。

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	卒 業 要 件 必 選	開 講 時 期		担 当 者	備 考
				3 年 前 期	3 年 後 期		
保 健 ・ 統 計	講 義	1	選 択			山 門 實	健 康 支 援

〈授業の概要・方法〉

保健統計は国の保健衛生行政を策定する基礎になると共に、現在の国の保健衛生状態を見ることが出来る。看護職として国民の健康・福祉・医療を考えるための保健統計・公衆衛生の基礎知識を学ぶ。

〈評価内容・方法〉

・レポート（80％） ・授業出席状況・態度（20％）

〈授業の到達目標〉

公衆衛生の概念がわかる。

国民の健康・福祉・医療の外観を保健統計を通して理解することが出来る。

〈使用教科書〉

厚生統計協会編 厚生指標「国民衛生の動向」

医学書院 公衆衛生

授 業 回 数	項 目	内 容	準 備 学 習 等
第 1 回	社会経済状況の動向と衛生行政	保健統計とは 衛生行政活動の概況 日本経済と国民衛生の動向	過去5年間の公衆衛生学、保健統計に関する看護師国家試験問題を抽出しておくこと。
第 2 回	衛生の主要指標	人口統計の動態を知る。 出生・死亡・妊産婦、周産期死亡	
第 3 回	保健と医療の動向	生活習慣病と健康増進対策 保健対策・感染症対策・医療対策	
第 4 回	医療保険・介護保険	医療保険制度 介護保険制度	
第 5 回	薬事	薬事対策の動向 医薬品などの安全性と有効性の確保	
第 6 回	生活環境 環境保健	食品安全行政の動向 化学物質対策 廃棄物対策の動向	
第 7 回	労働衛生 国家試験過去問解説	主な労働衛生対策 事業場における労働衛生管理	
第 8 回	学校保健 国家試験過去問解説	学校保健の概要 学校保健行政の動向	

授業科目	教員名	学年	単位	必・選	期
統合看護援助論	中村史江 他看護系教員全員	※3	※1	※必修	※ 後期

<概要・目的>

- ・各専門分野の既習の知識・技術を統合し、対象に応じた総合的な看護を実践するための能力を修得する。

<評価内容・方法>

- ・筆記試験 100%

<授業の到達目標>

- ・発達段階に応じた看護を実践するため、既習の知識を統合し判断できる能力を修得する。
- ・看護場面に応じた適切な看護判断を行うため、既習の知識を統合し判断できる能力を修得する。
- ・総合的な判断と根拠に基づいた看護が提供できる能力を修得する。

授業回数	項目	内容	事前学習
第1回	オリエンテーション ・看護の統合	・看護管理や災害看護、医療安全から統合した看護を学ぶ	看護管理、災害看護、医療安全について復習してくる
第2回	・成人期にある患者の看護	・成人期にある患者の看護を学ぶ	成人期・急性期の看護を復習してくる
第3回	・成人期にある患者の看護	・成人期にある患者の看護を学ぶ	成人期・慢性期の看護を復習してくる
第4回	・成人期にある患者の看護	・成人期にある患者の看護を学ぶ	成人期・回復期・終末期の看護を復習してくる
第5回	・小児期にある患者の看護	・小児期にある患者の看護を学ぶ	小児期の看護を復習してくる
第6回	・小児期にある患者の看護	・小児期にある患者の看護を学ぶ	小児期の看護を復習してくる
第7回	・周産期にある患者の看護	・周産期にある患者の看護を学ぶ	周産期の看護を復習してくる
第8回	・周産期にある患者の看護	・周産期にある患者の看護を学ぶ	周産期の看護を復習してくる
第9回	・在宅療養中にある患者の看護	・在宅療養中にある患者の看護を学ぶ	在宅看護の基本について復習してくる
第10回	・老年期にある患者の看護	・老年期にある患者の看護を学ぶ	老年看護の基本について復習してくる
第11回	・老年期にある患者の看護	・老年期にある患者の看護を学ぶ	老年看護の基本について復習してくる
第12回	・老年期のある患者の看護	・老年期のある患者の看護を学ぶ	老年期について復習してくる
第13回	・精神障害のある患者の看護	・精神障害のある患者の看護を学ぶ	精神看護について復習してくる
第14回	・精神障害にある患者の看護	・精神障害にある患者の看護を学ぶ	精神看護について復習してくる
第15回	・在宅療養中にある患者の看護	・在宅療養中にある患者の看護を学ぶ	在宅看護について復習してくる